



# 十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第74号

## 太素塚元朝参り 2014年12月31日(水)22:00~2015年1月1日(木)1:30

稲生巡行灯とキャンドル170個に点灯



元朝参りの時の太素塚



太素塚に参拝する小山田市長



中央町内会わね組有志による「十和田祭唄」「十和田囃子」の奉納



お孫さんと参拝する姿も



太素の水プロジェクト関連情報

JSCE 公益社団法人 土木学会 選奨土木遺産認定記念シンポジウム

## 未来に伝える三本木原開拓 開催報告

【1日目】2014年10月25日(土) 14:00~授与式・基調講演 18:00~祝賀会 【場所:富士屋グランドホール】

【2日目】2014年10月26日(日) 8:30~12:00 稲生川現地見学会

【場所:太素塚・新渡戸記念館~取水口~穴堰(トンネル)~ふれあい公園~一本木沢ビオトープ】



(公社)土木学会は稲生川穴堰と十和田市街地を周辺地域の発展のみならず、東北、北海道開発にも影響を与えた貴重な土木遺産と認め、複合的な「三本木原開拓施設群」として、2013年選奨土木遺産に認定しました。そこで、太素の水プロジェクト関係団体を中心に実行委員会を組織し、認定書授与式とあわせて記念シンポジウムを開催。およそ120人が参加しました。

### ■選奨土木遺産認定書ならびに銘板授与式

土木学会東北支部選奨土木遺産選考委員・八戸工業大学阿波稔教授から認理由を説明いただき、同委員・日本大学工学部 知野泰明准教授が、市街地の認定書を小山田久十和田市長に、稲生川穴堰の認定書を「太素の水」保全と活用連合協議会 新渡戸会長(当館館長)に、銘板とともに手渡しました。その後記念事業として実行委員会で作成した映像(DVD)『未来に伝える三本木原開拓』のお披露目上映を行い、静岡理科大学志村史夫教授と日本大学知野准教授に開拓の精神技術両面の価値についてご講演いただきました。



認定書を受け取る市長  
[花生け協力:小野啓子氏・姉崎チサ氏]

として八郎潟開発を計画した流れに十和田が強く影響を与えたと話されました。格子状都市に関して十和田はまさに東北初で、札幌等の街並みと後の同様の都市の手本になったと考えられる。更に水定規の使用は測量史上画期的で、都市計画、測量技術、トンネル掘削技術が、稲造の長兄・七郎を介し、安積疏水、那須疏水の建設、その後の鉄道トンネル掘削技術の近代化にも影響した。これらの点から十和田は土木史上非常に重要な位置を占めると話されました。\*基調講演講師プロフィールは前号に掲載



会場では北里大・八戸工業大学生が、生物分野、土木分野のポスターセッションを行いました。



選奨土木遺産銘板

### ■基調講演①「三本木原開拓と武士道精神」

講師: 静岡理科大学 志村史夫 教授

半導体研究で活躍した10年半の在米中、新渡戸稲造の『武士道』を大切な拠り所とした事に触れ、稲造の言う「武士道」とは太平の江戸時代に支配階級の武士が庶民の模範となるために求めた徳目で“忠誠、犠牲、信義、廉恥、礼儀、潔白、質素、儉約、尚武、名誉、情愛”から成り、正義を貫き、私欲に走らず、約束は命がけで守り、名誉のためには死を以て贖うことを義務付けた「低く暮らし高く思う真の知的生き方」と語られました。現代の腐敗した日本を救うのはこの精神的豊かさで、十和田から武士道を発信してほしいと話されました。帰国後は古代の超技術等を研究しており、古代ローマの偉大な水道技術にも通ずる測量、建設技術が稲生川にはあり、荒れ地を田畑にという武士の使命感、正義感と高い技術力で「命の水」を引いた事に深く敬意を表すると語られました。



志村先生

### ■稲生川現地見学会 【コーディネイト:Kyosokyodo(共創郷土)】

講師: 北里大学獣医学部 杉浦俊弘 教授  
水土木里ネット稲生川 阿部 俊 主任

稲生川取水口から一本木沢ビオトープまで、講師の解説で見学しました。同行された知野先生は「江戸時代、できるだけ山の高いところを貫いて水を上げることが大切で、稲生川にもその技術が使われている。水を引き、田畑を開き、都市計画を行う流れは当時先進的で、明治政府の開拓プランの教科書的なものと考えられ、十和田は近代発祥の地と感じる。昨日の志村先生のご講演と考え合わせると、先駆けとなる取り組みができたのは、新渡戸家が武家で、他の模範となるよう人々を導く存在であろうとする「武士道精神」(先立つ心)があったからでは。また、他地域にない街の景観的特徴に、何列にも重なり合う防風林があり、それが奥行きを見せている。大きな木は街の時間軸を見せ、現在の風景と昔をつなぐ存在としても重要。景観からまちを考えることが大切と改めて感じた。」とまとめて話されました。



\*未来に伝える三本木原開拓シンポジウムについて詳しくは新渡戸記念館まで  
TEL/FAX 0176(23)4430 nitobemm@hi-net.ne.jp

### ■基調講演②

#### 「三本木原開拓に始まる北海道と東北開発」

講師: 日本大学工学部 知野泰明 准教授

明治以降の北海道、東北開発に三本木原開拓がどう影響したかについて、佐賀鍋島藩出身で札幌の都市計画を後に行った島義武は、安政3年(1856)幕府使節の従者として蝦夷探検の折、三本木を通して開拓を見ており、島が明治2年(1869)蝦夷開拓使主席判官になり札幌を建設、明治4年(1871)に秋田県令



知野先生

主催=未来に伝える三本木原開拓シンポジウム実行委員会

【共催】(公社)土木学会東北支部、「太素の水」保全と活用連合協議会、太素顕彰会、十和田市立新渡戸記念館、稲生川土地改良区、北里大学、八戸工業大学、(一社)青森県建設業協会上北支部、(財)青森県工業技術教育振興会【協賛】(一社)東北地域づくり協会【後援】国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所、青森県上北地域民局、十和田市、三沢市、六戸町、七戸町、東北町、おいらせ町、東奥日報社、デーリー東北新聞社、NHK青森放送局、青森放送、青森朝日放送、青森テレビ



EVENT

開催報告

平成26年度 新渡戸塾こども講座

新渡戸記念館・市教育委員会 共催  
人づくり・地域づくり塾



※プログラムその1～その5は前号で紹介しています。

【協力：新渡戸記念館ボランティア Kyosokyodo (共創郷土)】

その6 「書の心は武士道の心・書道&茶道体験」<閉講式>

第5期生 43名が修了しました

■日時 2014年11月29日(土) 9:00～12:00 ■場所 十和田市民文化センター 邦舞邦楽練習室

書道講師の大山綾園氏は、“表現”としての書道と“正しい字の書き方”を学ぶ習字の違いからお話し下さり、子どもたちは自分の好きな文字や稲生塾の「武士道の心」の言葉から文字を選び、自分らしい文字に仕上がるまで何枚も書いていました。茶道では、表千家・玉掛靖氏から手を使わずに立ったり座ったりする作法など、基本的立ち居振る舞いをご指導いただきました。茶道を習っている子どもたちが着物姿でお手本を披露し、塾生たちはその様子に大いに刺激を受けました。閉講式では小山田久十和田市長(代理 米田省三教育長)、新渡戸館長から修了証と記念品の木札[制作協力：(社福)福祉の里 工房プリコール様・経商事株式会社様]が授与されました。第五期生を代表して皆勤賞8名の中から、6年生の中沢秀仁くん、沼田愛さんが「今年も新しいプログラムがあり、色々なことが学べてよかった。」「来年は中学生なので、卒業生として稲生塾に参加したい」と感想を述べました。



特別講座 「とわだ時空調査隊 特別編～鳩正宗の歴史をさぐる～」

武士道ブランド連携企画!

■日時 2014年9月20日(土) 9:00～11:45 ■場所 鳩正宗株式会社 工場

鳩正宗(株)はおよそ160年前の三本木原開拓時代から続く市内唯一の蔵元です。その歴史を大切にKyosokyodo (共創郷土) がコーディネートする武士道ブランドの第一弾として稲生川の水で育った米を使用した酒造りにも取り組んでいます。この特別講座(主催：新渡戸記念館・Kyosokyodo (共創郷土) / 協力：市教育委員会)では同社 稲本修明社長、中野渡博幸統括部長、南部杜氏・佐藤企氏を講師に酒造工場を見学させていただき、地域の歴史、文化を深く学びました。佐藤杜氏の案内で工場内を巡り、製造工程の説明を受けた後、稲本社長、中野渡部長より歴史や酒造りへの思い、使用する米や水へのこだわりなどをお聞きしました。稲本社長は「市内唯一の酒蔵となってしまったが、日本酒は大切な伝統文化であるし、十和田市の歴史と文化を伝える地酒を大切に造り続けていき、まちが元気になるように精一杯がんばりたい」と思いを語りました。塾生たちは調べた事をミニ新聞にまとめ「酒造りの大変さが分かり、心をこめて作られていることがよくわかった」「十和田の魅力として伝えたい」といった声が聞かれました。



平成26年度 新渡戸塾モデルスクール事業

頭の中でいろんな音を想像しながら筆を自由に動かしてみよう!

★『行灯ワークショップ』(講師:工作屋台村 吉田紀美男 村長)

安政6年(1859)稲生川上水成功後、新町稲生町で最初に行われた祭り“大行灯祭り”にちなむ「行灯ワークショップ」を次の日程で行いました。吉田村長は開拓の歴史とともに各校が立地する地区の歴史や開拓事業なども紹介し、子どもたちは地域の先人があって現在の発展がある歴史を踏まえながら創作活動を楽しみました。(稲生塾出前講座として実施)

【開催日程】2014年6月25日(水) 深持小学校・9月25日(木) 西小学校・11月19日(水) 洞内小学校

★『先人の志についての出前講座』(講師:新渡戸常憲 館長)

2015年2月4日(水)「拓魂」を校是にかかげる十和田市立三本木中学校2年生の「立志式」において『新渡戸家の精神と稲造博士の武士道精神』と題し、新渡戸家の歴史、十和田市のまちづくりに関する思いや新渡戸三代の志について講演を行います。



平成26年度 新渡戸塾しめ縄づくり

上手にしめ縄がなえたよ!

講師:新渡戸記念館ボランティアKyosokyodo(共創郷土)メンバー

澤口栄氏、戸来陽子氏、澤口隼三夫氏、久保久雄氏、久保美和子氏、山邊浩子氏、赤城ミチ氏、角田聡氏

1 2014年11月29日(土) 9:30～11:30 [場所:十和田市立南小学校] ※参加人数140名

南小学校5学年PTA親子レクリエーション「しめ縄づくり」に講師を派遣しました(新渡戸塾モデルスクール事業)。南小学校では4年前から米づくりについて総合的な学習で取り組んでおり、今回も子どもたちが田植え、稲刈り、脱穀・精米を行った稲わらを使用してしめ縄を作りました。一人一人に縄をなう動作の指導を行い、子供たちは自分でなった縄に自由に飾り付け、お正月のしめ飾りやクリスマスリースを作成しました。

2 2014年12月13日(土) 13:00～16:00 [場所:太素塚集会所] ※参加人数60名

毎年人気の一般向けしめ縄づくりでは、松ぼっくりや松葉、木の実の他、祝い鶴、手づくりのミニ羊などでアレンジしたお正月用とクリスマス用のリース型しめ飾り、干支の羊をかたどったしめ飾りなどを講師に指導いただきました。インドから南部町に農家民泊をしている高校生9名も体験に加わり、しめ縄づくりを通して賑やかに異文化交流を楽しみました。





平成26年度 寺子屋稲生塾 活動の成果展 (全4回)

- 会場① 十和田市民交流プラザ [期間: 2014年10月22日(水)~12月14日(日)]  
※「とわだ時空調査隊」の5年間の新聞と本年の活動の成果物を合わせて展示
- 会場② 十和田湖公民館 [期間: 2014年12月6・7日(土・日)十和田湖公民館まつり]
- 会場③ 十和田市立新渡戸記念館 [期間: 2014年12月13日(土)~2015年2月1日(日)]
- 会場④ みちのく銀行十和田支店 [期間: 2015年1月15日(木)~2015年2月27日(金)]



成果展の展示会場として協力いただいた  
みちのく銀行十和田支店 中澤 治 支店長からのメッセージ

寺子屋稲生塾の皆さんへ

稲生塾の皆さんは、一年間の多彩なプログラムを通して、郷土愛、武士道精神、開拓精神という、未来を切りひらいていくために大切な心をはぐくまれました。支店内に飾られている、「礼」「仁」「和」「誠」「優」など、皆さんの純粋な心をそのまま写したような書道作品や活動記録からは、日本人にとって大切な「武士道」の教えと、十和田市を築いた先人たちの苦難の歴史、そして「地域の宝」である皆さんを心から思い、手を差し伸べられた多くの地域の方々との交流から、人の絆、地域の絆、そして過去と未来をつなぐ「時の絆」をしっかりと受け止められた皆さんの成長を感じます。



私たちの支店は、皆さんが今回「まちなか探検」で調査された十和田観光電鉄線の、とうてつ駅ビルがあった場所に建っています。まとめられた壁新聞やクイズ、マンガ作品を通して、十鉄89年の長い歴史のみならず、鉄道に込められていた思いについても感じることができました。十鉄ゆかりの地にある当支店も、「家庭の銀行」として、地域との絆を大切に、益々十和田市の発展に貢献していきたいと心を新たにしています。

トピックス 十和田市・花巻市 新渡戸友好都市締結25周年記念事業開催

十和田市開拓の祖・新渡戸傳翁ならびに長男・十次郎の生誕地である花巻市と十和田市は昨年、新渡戸友好都市締結25周年の節目を迎えました。十和田市では記念事業「十和田市民100人で行く花巻市探訪ツアー」を企画し、2014年10月11日(土)小山田久十和田市長をはじめとする市関係者、新渡戸館長、ほか一般市民総勢120人で花巻市を訪れ、花巻新渡戸記念館において行われた記念式典に出席しました。式典では友好の印として上田東一花巻市長をはじめとする花巻市関係者とともに十和田市の木「もみじ」を植樹しました。また、11月1日(土)には十和田市民交流プラザにおいて新渡戸友好都市交流委員会が記念セレモニーを開催、花巻市から上田市長はじめ80名の方々をお迎えしました。今回の記念事業には当館ボランティアKyosokyodo(共創郷土)メンバーも協力し、花巻探訪ツアーのサポート、十和田市での交流昼食会のおもてなしなどで事業を盛り上げました。



10月11日  
花巻市へ  
探訪ツアー  
& 記念植樹  
(花巻新渡戸  
記念館敷地)

11月1日  
十和田市へ

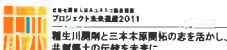
記念セレモニー  
& 交流昼食会  
(市民交流プラザ)



花巻市長(左)から記念品の謝状牌を受け取る十和田市長



友好の意で花巻の方をお出迎え 交流昼食会  
Kyosokyodo(共創郷土)は十和田市産を使用したメンバー手作りの長芋ひつまみ、お漬物、黒ニンニク、ニンニク味噌などを提供。十和田バラ焼きセミナー、伝承八十の会等の方々と共にてもなし役を務めました。



太素の水プロジェクト関連情報

Kyosokyodo(共創郷土)による市民共創の地域ブランドづくり~元気な十和田市づくり市民活動支援事業~  
武士道ブランド第一弾として日本酒「武士道」誕生



ラベルデザインはコシノジュンコ先生によるもの。黒は「慎み」青は「希望」(海原、ジャパンブルー)金は「誉れ」桜は日本の心を表しています。

Kyosokyodo(共創郷土)は、稲生川の恵みを地域活性化に活かすため、趣旨に賛同する市内酒蔵・鳩正宗(株)、酒縁研究会(小川洋平会長)など酒事業者、農業関係者のネットワーク構築に取り組み、地域ブランド第一弾・日本酒「武士道」が2014年12月10日(水)誕生しました。新渡戸稲造の「武士道」のバックボーンとなった三本木原開拓の歴史を、十和田の地酒に乗せて発信し「世界に誇る十和田ブランド」を確立する試みで、十和田の開拓の歴史と「武士道」のつながりを解説したしおりが添えられています。本年度は限定2,000本を市内、県内に販売したところ反響が大きく、12月中に完売しました。今年は更なる内容充実を図り、志を同じくする仲間を増やして広く十和田ブランドを発信していきますので、応援の程宜しくお願いします。



市民の力で誕生した「武士道」ブランドの完成報告に喜ばれる十和田市長(左から3番目)



「武士道」ブランド誕生の報告を受け、青森県の魅力として、世界へ発信することについて期待を語る三村申吾青森県知事(右端)



★趣旨やコンセプトに共感いただける企業や団体と第2弾、3弾と取り組んでいきたいと思っています★

しおりでは、十和田市の歴史と、太平洋の橋・稲造について当館資料により紹介。稲造と家族のイラストは八戸工業大学3年佐藤帆里さんの作品

企画お問い合わせ Kyosokyodo(共創郷土)事務局  
TEL・FAX0176-23-4430 info@kyosokyodo.jp  
ブログ: <http://bushidotowada.tumblr.com/>

平成26年度 第2期 博物館実習

※今年度は1期、2期合わせて6名の学生が実習を行いました

北里大学獣医学部 生物環境科学科 4年 根本遥奈さん

北海道教育大学教育学部函館校 人間地域科学過程 4年 千葉愛莉香さん



根本さんが携わった「お三木あかね」

9月17日(水)  
~9月30日(火)

稲生塾や茜染め活動の補助の他、「武士道」ブランドづくりに関わる、十和田の地酒や米についての資料作成を行いました。

9月30日(火)  
~10月10日(金)

ワークショップ補助の他、来館した小学生が楽しく新渡戸傳さんについて学習できる「新渡戸傳すころく」を作成しました。



学習員の仕事の幅が広がりました!課題のすころくは、内容を史実に沿ったものにするのに苦労しましたが、やりがいも感じました。

千葉さん作成 新渡戸傳すころく





# EVENT

## 「ふるさと田んぼと水」子ども絵画展2014 稲生川流域の子どもたちの出品作品展

会期：2015年(平成27年)1月6日(火)～2月1日(日)  
会場：新渡戸記念館 ふるさと見本市コーナー 協力：水土里ネット稲生川

「ふるさと田んぼと水」子ども絵画展は、小学生以下を対象とする、全国水土里ネット・都道府県水土里ネット主催の絵画コンクールです。農業、農村が守ってきた伝統文化、豊かな田園風景という大切な財産を題材に、未来を担う子どもたちに、絵を描いてもらい関心を持って欲しいと開催されています。今年で15回目を数え、2014年も全国8,359作品の応募から、入賞22作品、入選94作品、団体賞54作品が決定しました。新渡戸記念館では水土里ネット稲生川のご協力で、稲生川流域の子どもたちが出品した全23作品を、作画した子どもたちの言葉を添えて展示しました。展示作品の内、一戸那々人さん(六戸町立大曲小学校6年)の作品「農作業」は団体賞『水土里ネット青森会長賞』を受賞しています。稲生川がはぐくむ田園風景などを、子どもたちはみずみずしい感性と表現力で描いており、来館者からは「今後もこうした取り組みを継続してほしい」との声が寄せられました。



「什の掟」ならぬものはならぬものす

新渡戸記念館特別展・リバイバル企画【十和田市商店街連合会・十和田会津会 協力】  
**とわだ会津めぐり 新渡戸家と会津展**  
— 昨年(2014年)の市商店街連合会主催まちなかオリエンテーリングで紹介された十和田と会津、新渡戸家と会津の関わりを、当館資料と共に紹介します。  
■ 展示期間：2015年2月22日(日)～4月19日(日) BUSHIDO The Soul of Japan  
■ 場所：新渡戸記念館

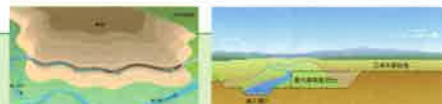


### ～選奨土木遺産認定記念～ 稲生川学習用DVD『未来に伝える三本木原開拓』が完成!

三本木原開拓の歴史と技術をアニメーションを交え映像で分かりやすくお伝えしています。

DVD200部を、市内教育機関、関係団体、希望する個人などに配付予定です。

DVDのお問い合わせは新渡戸記念館まで TEL/FAX 0176(23)4430 nitobemm@hi-net.ne.jp



※DVDは元気な十和田市づくり市民活動支援事業・プロジェクト未来遺産「レクサス特別賞」の一部助成を受けて作成しました。

## mini NEWS

### 資料の寄贈

益川百合子 様(十和田市)より稲生町六丁目 月星紋つき祭半纏ならびに祭幕を寄贈いただきました。



祭半纏を持つ 益川さん

### 太素塚清掃奉仕

- ・10月5日(日) 11月2日(日) さわやかクラブ 様
- ・11月9日(日) 稲生ライオンズクラブ 様
- ・毎月27日 Kyosokyodo(共創郷土)メンバーの皆様

ありがとうございました

### 関連情報

#### ▶ ピアニスト・村田恵理さん来館

2014年12月11日(木)弘前在住のピアニスト村田恵理さんのリサイタルが、館長が会長を務める十和田市立中央病院芸術ボランティア「アルタ・ノヴァ」ならびに同病院主催で行われました。村田さんのご先祖は盛岡出身で新渡戸十次郎と親交があったと伝えられているようで、翌日記念館に来館され、館長の案内で館内を興味深くご覧になっていました。



村田さんとアルタ・ノヴァのメンバー

[写真提供：吉積威氏]

#### ▶ 十和田ご当地でめぐいに新色「ぼたん色」登場



「はなだ色」に続く伝統色シリーズ。十和田市観光物産センター(AST)、道の駅とわだびあでも好評取扱中!

残りわずか!

#### ▶ 当館ボランティア Kyosokyodo(共創郷土)の新聞・ネット等での執筆ならびに講演活動

デーリー東北リレー連載「私見創見」に Kyosokyodo (共創郷土) 新渡戸富恵会長が以下の記事を寄稿。全国で地域再生に取り組む方々と「地・宝・人ネット」で意見交換。2015年1月23日(金)倫理法人会モーニングセミナーで Kyosokyodo (共創郷土) の活動について講演しました。

- 【デーリー記事掲載日とタイトル】  
2014年9月2日(火)「官民医バランスよく活動～長寿県・長野に学ぶ～」  
2014年10月21日(火)「地域消滅の危機～まちに自負と愛着を持つ～」  
2014年11月25日(火)「失いたくない日本の心～フラット化する世界～」  
【地宝人ネットアドレス】www.47news.jp/localnews/chiikisaisei/

## 活動報告

### ▶ 館長の講師活動

2014年11月1日(土)第一回千葉歴史文化フォーラム～わが郷土・千葉の祖、千葉氏と武士道に迫る～(千葉県文化会館)第二部で講演(演題:武士道精神と開拓精神)



千葉歴史文化フォーラム

12月9日(火)平成26年度寿大学で講話(演題:三本木原開拓の歴史について)

### ▶ 館長が『月刊 武道』に執筆しました

(公財)日本武道館の機関誌『月刊 武道』(2014年11月号)に「武士道精神—公に尽くす志—」と題し、新渡戸家に代々受け継がれた武士道精神について随筆を寄稿しました。

### ▶ 博物館関係会議出席

2014年10月2日(木)東北博物館大会(開催地:福島県津若松市)11月19・20日(水・木)第62回全国博物館大会(開催地:三重県津市/大会テーマ:多様化する博物館～対話と連携で未来を探る～)に館長が出席しました。

### ▶ 音楽学博士・音楽評論家として館長が活躍

日本ピアノ研究会主催、2014年度全日本ジュニアピアノコンクール・全日本ピアノオーディション2014年11月2日(日)前橋本選会(前橋市)、15日(土)北九州本選会(福岡市)、16日(日)四国本選会(高松市)において審査員を務めました。また、月刊『潮』(2015年2月号)に「ショパンが愛した師」と題して随筆を寄稿しました。

### 編集後記

連日、ボコ・ハラムや「イスラム国」の痛ましいニュースが続いている。イスラム過激派といわれる人たちの行動には懸念を示さざるをえず、その行方を案じている。一方で、フランスの「シャルリー・エブド」紙のイスラムを侮辱した風刺画に対する「復讐」として、パリの同社編集部など襲撃を受け、多くの人が犠牲となった。避れば、フランスは王政から共和国制へと展開していく過程でフランス革命により「自由」を手にしてきた歴史がある。「表現の自由」を主張するのはいいが、民族、宗教や文化の違いへの敬意を忘れてはならない。それと同時に両者とも自分たちの文化や宗教を原点にもどってきちんと理解することが求められる。ネット社会の現在、ニュースは大小問わず一瞬で世界に拡散する。世界との距離が近くなった一方で、次第に離れていく、そんな現状を稲造はどう思っているのだろうか。(館長 新渡戸常憲)

■ご利用案内  
・開館時間：午前9:00～午後4:00  
・休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日) 年末年始(12/29～1/3)  
・観覧料：大学生・一般210円(団体180円)  
小・中・高校生54円(団体43円) ※団体は20名以上  
十和田市民は観覧料が無料となっています



世界に通ずる私たちのローカル記念館を目指して  
**十和田市立 新渡戸記念館**  
Nitobe Memorial Museum  
URL www.towada.or.jp/nitobe/

発行日 2015年2月1日  
編集・発行 大素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館  
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1  
Tel & Fax : 0176-23-4430  
Email : nitobemm@hi-net.ne.jp  
印刷 株式会社 岩間印刷